

1 令和3年度の学校経営について

今年度もコロナ禍が続き、感染防止対策を講じながら教育活動を進めてきました。夏休み過ぎから新型コロナウイルスの感染が再拡大し、学校は分散登校となりました。その期間はクラスの人数を半分にして授業を進め、カリキュラムを止めることなく、横浜市教育委員会より準備されていたipadを活用して子どもたちは学習を進めました。子どもたちは授業でipadの基本的な使い方を学んで、アプリのロイノートも使いこなせるようになりました。その後、ipadを使う頻度も増え、国語の漢字の練習や社会の調べ学習で活用しました。また、理科の各班の実験結果を写真で記録して、比較しながら考察したり、物体を拡大レンズで観察したり、体育で動きの画像を撮り自分たちの動きを振り返り、次の作戦を立てるなどしました。学級や委員会活動ではアンケートの集計に活用しました。6年生はLINEネット講座でコミュニケーションのとり方を学びました。このように、各教科でipadの様々な活用方法を学ぶことができました。現在も学びの方法の一つとしてipadを活用しながら、授業を展開しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の取組については、学校、家庭、地域が一体となって、力を合わせる必要があると思っていますので、学校から配信のメールやホームページを積極的に活用しました。その他必要な情報についてもメール配信やホームページを活用してお知らせしました。中でも毎日の給食の写真は好評でした。

○ 令和3年入学式

新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて、全ての教職員で1年生を迎え、保護者の出席は1名と学校運営協議会の委員の皆様で、それぞれ間隔を十分に取って、席も指定をして入場していただきました。

○ 学年指導体制

教科や学習内容によって担任が入れ替わって授業しました。複数の教員がかかわる教育活動を取り入れました。全学年で「教科分担制」を行いました。複数の教員が子どもの指導を行うことで、多様化する子どもが安心して学校に登校できる環境づくりに努めました。複数の教員は密に情報共有を行いました。(砂時計ノートに記録する。)

○ 安心・安全なまちづくり、学校づくり

安全・防犯・防災に関して、PTAスクールゾーン対策協議会を、7月15日(木)に開催しました。PTA 校外委員さんの通学路の安全点検報告、補修箇所の指摘を受け、関係機関が改善作業を進めています。(例;歩道の白線塗装等)

○ 学習環境整備

引き続き学校施設改修・改善に努めました。特別支援教室「スマイル」や「ドリーム」の充実も図ることができました。特に校庭の古い遊具を撤去して、新しい遊具を設置しました。安全に配慮し草木の剪定を行いました。こまめに消毒や換気を行いました。健康観察も十分に行ってきました。保護者もよく連絡をくださり、感謝しています。

○ スポーツフェスティバルの開催 10月20日(水)

4色に分けて、午前中3部制(低学年・中学年・高学年)で実施し、5時間目は教室で振り返りを行いました。児童の保護者1名参観で入れ替え制にしました。また、学校運営協議会の方々

に参観していただきました。受付は職員の他、PTAの本部役員にお願いしました。ゴールの近くに受付があったので、人が集まる状況になってしまいました。校庭のライン引きや片付け等は学校・地域コーディネーターの方々にお手伝いしていただきました。6年生のぐちっこソーランではPTAより65周年記念事業で新調していただいた法被を着て、踊りました。徒競走では全学年校長が呼名しました。

○ 1年生から3年生の遠足実施

貸し切りバスで移動し、車内が密にならないよう対策をして、遠足を実施しました。行先は1年生が10月28日「金沢動物園」、2年生が10月28日「よこはまズーラシア」、3年生が11月25日「生田緑地(日本古民家園)」でした。

○ 4年生から6年生の宿泊行事は特別遠足(日帰り)で実施

貸し切りバスで移動し、車内が密にならないよう対策をして、特別遠足を実施しました。4年生は11月12日「愛川遠足」で宮ヶ瀬ダム放水見学や手織りや藍染めを体験しました。5年生は6月18日「三浦遠足」で農業体験をしました。6年生は6月17日「箱根」遠足で、関所や大涌谷の見学、寄木細工体験、芦ノ湖を遊覧船で周遊しました。

○ 令和3年度卒業式 3月18日(金)

新型コロナウイルスのオミクロン株の感染急拡大が1月から2月にかけて起こり、感染状況がとても心配なので、しっかり感染防止対策を行って、卒業式を挙げる予定です。式典の参加は児童の保護者1名(体育館)、職員、学校運営協議会の皆様です。また、6年生の教室で児童の保護者1名が卒業式の様子を生配信で観覧できるようにする予定です。尚、教室では距離をとって、ご自分のお子様の椅子に保護者1名が座っていただけるようにします。(生配信ができる理由:卒業式は時間が長いため、保護者の移動の時間が確保できるため、生配信できる人材の確保とリハーサルが何度もできるため)

○ 授業づくり

一人ひとりを取り残されないように、持続可能なカリキュラムマネジメントを教師は研究しています。特に今年度重点を置いて研究をしたのは、体育、算数、道徳です。子どもが何を学ぶのか単位ごと明確にし、学習計画を立てています。横浜市の教育ビジョン2030に掲げているように横浜の教育は「子どもが主体的に考え、学び続け、多様な人々や社会と関わり合うこと」を大切にしています。本校も横浜版学習指導要領の「総則」に示されている「主体的・対話的で深い学び」を目指して、人権教育を大切にして授業改善を行い、教師の授業力向上に繋がりたいと思っています。児童の個別に対応する特別支援も積極的に行っています。外国語活動として1年生からアシスタントイングリッシュティーチャーと一緒に英語でコミュニケーションをとる授業が行われています。国で定められた授業時間数は確保しています。

○ 働き方改革(学校教育の質を高められるような改善)

教職員の打合せを月曜日に設定しました。週始めに行くことで行事や活動の見通しを共有できるようにしました。会議等を火曜日に設定しました。月曜日に資料等の準備ができるようになり、休日に出勤がなくなることがねらいです。休日は職員にゆっくり休んでストレス解消に繋げてほしいです。朝会(月曜日の朝は、子どもたちの荷物が多く、不安定です。)・集会・重点研究を金曜日に行いました。金曜日は5校時とし、教職員の研究・研修や授業準備に活用しました。

年間計画と連携した「週案・週予定ソフト」や職員室のグループウェア「ミライム」の積極的な活用を進め、業務の見える化やペーパーレスを図っています。誰が(どの学年が)どのような活動をど

ここで何時から行うのか各自のパソコンや大型モニターに表示されます。全学年で「教科分担制」を行い、教材の準備の効率化にもつながり、授業の充実を図りました。

職員室業務アシスタントや非常勤職員の配置や確保を引き続き積極的に行って、職員の負担を軽減していきます。

○ 道徳一斉公開授業研究会実施

教職員全体で学校教育目標の具現化を道徳教育の充実を通して、達成できるよう努めました。テーマは「自己肯定感がもてる子どもの育成」で、自分を認め、人を受け入れる優しい心をはぐくみよりよい生き方を考えようとする道徳教育を目指しました。12月に市内に向けた道徳一斉公開授業を実施し、研究会を行い、専門の先生に講評をいただき、授業力向上に繋がりました。

○ 幼保小連携実践報告

1年生の児童が年長の園児との交流を通して、自己肯定感を高められる活動を可能な限り計画的に実施しました。園児が小学校での学習活動を共有し、小学校に入学する接続が円滑になるよう努めました。神奈川区の幼保小連携推進代表校として実践報告を子ども青少年局に提出しました。

大口台小学校ブロックの交流

【交流園】
松見保育園、銀嶺幼稚園、キッズパートナー妙蓮寺

【実施内容】

〈子どもの交流〉音読発表会(7月)、運動会練習見学(10月)、校内作品展出品・見学(12月)
生活科で育てたあさがおの種と手紙を年長さんにプレゼント(2月予定)
〈職員の連携〉小学校授業参観(5月)、保育参観(7月)、職員実技研修会(1月)



音読発表会(動画)

長いセリフを言っていて、かっこよかった。
誰もふざけてなくて、かっこよかった。

すごい!かっこいいね!
ブリッジはぼくたちもできるよ。



運動会練習見学

上手だね。
どうやって描いたの。



校内作品展出品・見学

絵の具を使って描いたよ。
久しぶりに、お兄さんお姉さんになれてうれしいな。

【ふりかえり】

小学校、保育園で行っている活動が互いに分かってきました。実際に子どもたちの様子を見たり、その場の雰囲気を感じたりすることができたことが大きかったです。
保育園の子どもたちにとっても、何回か小学校に来られたことは、小学校の様子を知ったり、慣れからの安心感を得たりすることに繋がっていました。

○「読みのスキル」向上推進校

1年生の国語学習の基盤づくりに力を入れました。特に読みのスキルの向上を図ることで、成長に繋がりました。また、MIMの研修を受け、個に応じた有効的な支援を実践し、日常的に用いる語彙を広げました。

○ 小中連携交流会・・・SDGs研修会実施

6年生児童と神奈川中学校の生徒の交流は中止になり、中1ギャップを解消するために、中学校の生活をビデオに収めたものを6年生が視聴しました。小中学校の職員間では夏にSDGsの研修会を行い、県立東高校のSDGsの取組を参考に小学校と中学校で連携してできるSDGsを考えました。

■ 地域と連携した学校教育活動について

地域の皆様や地域学校協働本部の皆様にご支援やご協力いただいて教育活動が充実していることや毎朝の見守り隊の方々に子どもたちが見守られて、安全に登校ができていることにとっても感謝しております。引き続き、来年度もよろしく願いいたします。

今年度は6年生の大口台遺跡出土の土器の学習、3年生は昔の生活を体験する「井戸水・洗濯板でおせんたく」、スポーツフェスティバルの当日準備や片付け、はまっ子未来カンパニー事業に参加して「まちの良さを伝えるパンフレット」の製作、3、4年生は人権教育[CAP]の学習、4年生は大口台小学校の地域や学校の40年前や60年前の写真を披露していただき、今と昔の違いを学習しました。12月の人権週間の全校朝会の時に盲特別支援学校の副校長先生より話題のドラマと関連づけて、人権教育のお話をしていただきました。

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策で、「1年生の給食補助のエプロン先生」や「図書ボランティアさん」が例年通りに活動できなかつたことが残念でした。

- ・ 学校と地域が連携・協働して一体となって子どもを育てる仕組み
- ・ 学校と目標やビジョンを共有した応援団

大口台の地域の力と学校教育の一体化を目指します

- ・「学校運営の基本方針」の承認
- ・「連携・協働活動」を協議
- ・「学校関係者評価」の実施
- ・学校教育目標を理解
- ・地域と学校をつなぐ
- “子どもを育てる”視点

学校運営協議会の役割

役割が広く多くなる
学校運営のPDCAサイクル全体にかかわる

委員の役割

目標を共有して教育の当事者となる
責任感と自覚が違う

○ 学校運営協議会設置校として2年目

- ・ 学校を支える仕組みの強化
地域・保護者のみなさんと学校が目標を共有し、一定の権限と責任をもって学校運営に参画する仕組みです。
- ・ 委員構成…15名まで(①②③立場の異なる構成) 代理出席者はなし
 - ① 地域住民
連合町内会長、地域防災担当、放課後キッズクラブ、主任児童委員・民生委員等
 - ② 保護者代表
PTA 会長
 - ③ 学識経験者
神奈川中学校長、盲特別支援学校長、外部有識者
- ・ 本校では、構成する委員の素地はある。
- ・ 本校では、協議会としての機能がすでに働いている。
地 域…学校地域コーディネーター、エプロン先生、ふれあい給食会、大口通商店街
保護者…図書ボランティア

○ 地域学校協働本部地域学校協働本部…地域と学校をつなぐ具体の姿

- ① 学習支援
エプロン先生〔低学年；給食支援〕 実習支援(家庭科、書写、水泳、音楽、図工等)
図書ボランティア クラブ活動支援 アシスタントティーチャー等
- ② 安全支援
登下校安全指導(見守り隊) 学校環境整備 等
- ③ 地域連携支援
学校・地域防災(総合防災、避難所等) 情操教育(合唱部の地域行事参加等)
福祉教育(盲特別支援学校との交流ふれあい活動、ふれあい給食)
地域行事(地域交流まつり、神奈川中ふれあいコンサート等)
キャリア教育・環境教育等の講師依頼、等

■ 地域学校協働活動事業について

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校・家庭・地域が連携・協働し社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的とします。

この本部の業務は、地域学校協働活動事業の実施に関して必要な業務全般です。

「地域学校協働本部」は既存の地域と学校の連携体制をもとにして、地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)が中心となって緩やかなネットワークを形成し、より多くの幅広い地域のみなさんや団体等の参画によって地域学校協働活動を推進する体制です。

○ 学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)の配置

学校とボランティアの連絡調整、学校と地域をつなぐ事業の企画や運営等の中心となる人材として、教育委員会が開催する養成講座を修了した学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)を配置。(本校では、岡井委員、山本委員)

○ **地域学校協働本部の設置継続**

今年度は委員長、庶務、会計の担当と役割分担を決めました。学校、地域、保護者、ボランティア、学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)、自治会町内会や区民利用施設の関係者等で組織し、学校支援の内容について検討を行うとともに必要な事務経理を行うこと。(本校では、従前より活動の実態があります)

○ **学校支援ボランティア活動の実施**

地域住民や保護者が、ボランティアとして地域学校協働を行う体制を整備し、地域学校協働活動を実施すること。

○ **地域、関係機関との連携・協働**

地域、関係機関等で連携・協働して事業を進めること。

○ **広報啓発活動**

地域の教育力の向上に資するための啓発活動や、学校・地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)の認知度を広く高めるための広報活動を行うこと。

○ **研修会への参加及び活動報告会での実施内容の報告**

教育委員会が開催する研修会に参加すること。また、活動報告会において活動状況の報告・展示等を行い、本事業に関する情報提供を行うこと。

○ **事業報告書の作成**

指定様式の事業報告書を作成し、教育委員会へ令和4年3月8日必着にて提出する予定。

2 令和3年度 大口台小学校重点研究について

1 研究テーマ

自己肯定感をもてる子どもの育成
～教師の支援と授業のあり方～

学校教育目標「わくわくトライ 大口台」

自ら進んで学び続ける子・・・知
相手を思いやり、自分を大切にできる子・・・徳
心身ともに健康でたくましく生きる子・・・体
人やまちとのつながりを大切にし、ともに未来をつくる子・・・公、開

小中一貫教育の取組

〈課題解決力〉〈自尊感情〉〈コミュニケーション〉

- ・目指す資質・能力を基盤に、学習への積極的な参加、適切な言語表現、確実な知識・技能の定着を図る。
- ・礼儀や規範意識を身につけ、自他へ思いやり、やさしさを行動に表せるようにする。
- ・地域に暮らす者として、自覚と責任のある行動と感謝の気持ちをもてるようにする。

2 研究テーマ及びサブテーマ、教科設定の理由

本校は、上記の学校教育目標のもと、4つの子ども像を掲げ、様々な教育活動を行っている。また、神奈川中学校ブロックの取組として3つの視点を持ち、子どもの育成に関わってきた。学校教育目標に掲げる子どもの姿の実現には、自己肯定感が子どもの根底にあることが必要であると考えている。

研究テーマに掲げる「自己肯定感」はあらゆる教育活動の中で育まれるものであるが、重点研究で取り上げることで、自己肯定感を育む方法、そしてその自己肯定感の高まりをとらえていく方法について教職員で共通理解し、学校全体で子どもの成長を支えられるようにしていきたい。

本校の研究では、子ども一人ひとりが自分自身を大切に感じ、自らを肯定的に捉えることを目指していく。また、自分を見つめ、自分のよさを認められるようにすることで、自己を満ちし、他者を肯定的にとらえられるようにしていきたい。今までの、自己肯定感のとらえを基に、子どもたちがよりよく学べるように研究を進めていく。

自己肯定感をもてる子どもの育成を目指していくが、なかでも、3つの視点に基づいた手立てから自己肯定感を高めるための支援のあり方、授業・単元展開の流れ（型）について議論を重ねていく。教師が適切な手立てを施すことで、子どもの「学校って、楽しい！好き！」「わかった！友達と教え合える！みんなと楽しみを共有できる！」「苦手でもアドバイスできた！聞いてもらえた！授業中に居場所がある！」を演出することで、いきいきと授業参加でき、自己肯定感をもてるようにしていく。

3 本年度の実践について

①本年度は昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、研究授業の数を減らし、初任者研修など年次研修対象者の授業を研究授業として行った。そのため、「自己肯定感をもてる子どもの育成」をテーマに全職員で授業づくり、人材育成の視点を持ち、研究を進めた。

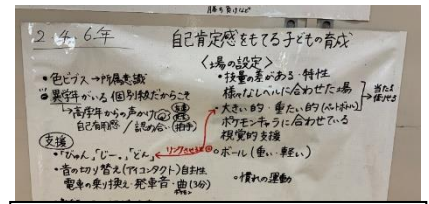
②道徳授業力向上推進校に指定され、研究授業を公開した。また、道徳科の授業研究を進めた。

③全校に配備されたタブレット端末の使用について研究を進めた。

4 実践の具体について

①研究授業について

本年度は初任者研修の対象の教員が3名、中堅者研修の対象の教員が2名いる。昨年から取り組んでいる「授業プラン検討」では、授業のゴールを意識した単元計画ができるよう忌憚のない意見交換を行った。実際に使用する教材を試してみたり、体育の授業では実際に職員が動いてみて場の有効性や声掛けのポイントを整理したりすることができた。本校の研究会は「わくわくワークショップ」という名称で、教員同士が忌憚のない意見を伝え合える環境を意識して作っている。授業者の課題を明確にし、よい学びになるように視点を絞り、実施してきた。



研究会での話し合いのまとめ



②道徳授業力向上推進校について

本年度は道徳授業力向上推進校に指定され、授業研究会を開催した。日々の道徳の授業のあり方を見直すために、横浜市立白幡小学校校長望月重晴先生を講師に招き、校内授業研究会を行った。その中では道徳の授業に向けて、日々の生活の中でどれだけ道徳的価値について触れることができるか、そしてその種まきができるかや、授業の流し方などについて学ぶことができた。また、推進委員会でも板書や授業の進め方について研究を行ってきた。



③タブレット端末の活用について

全校児童に一台ずつタブレット端末が配布され、今年度より本格的に運用していくこととなった。発達段階に応じて、活用の仕方は様々であるが、多くの学級で見られたのが課題の共有とワークシートの配付であった。社会の調べ学習などではパソコン室に行ったり、図書室の資料を活用したりすることが多かったが、ネット環境も整備されたおかげで、調査の時間短縮や児童の興味に応じて学び進めることができるなど、良い面が見られた反面、個人情報保護についての意識を高めていかなければならないなど課題も見られた。



図画工作の授業では、作品をロイロノート上に動画で提出し、クラスで共有をした。友達の作品を見られるだけでなく、成果物を蓄積する役目もあった。

体育の跳び箱の授業では技のポイントを連続図で提示するだけでなく、動画も視聴できるようなワークシートを作成した。自分の技と手本を比べ、学び進める姿が見られた。



3 令和3年度 大口台小学校いじめ防止対策委員会報告

月日	取組内容	
4月2日(金)	○いじめ防止基本方針について全職員で共通理解 ○児童の情報について各学年で引継ぎ 第1回いじめ防止対策委員会 ○年間計画と重点指導内容の確認・引継ぎ、いじめの定義の確認	
4月23日(金)	いじめ防止対策委員会①	・情報共有 ・支援策検討
5月7日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会②	・情報共有 ・支援策検討
5月10日(月) 5月11日(火)	○保護者教育相談	・実態把握
5月27日(木)	いじめ防止対策委員会③	・情報共有 ・支援策検討
5月28日(金)	いじめ防止対策委員会④	・情報共有 ・支援策検討
6月1日(火)	いじめ防止対策委員会 定例会⑤	・情報共有 ・支援策検討
6月10日(木)	いじめ防止対策委員会⑥	・情報共有 ・支援策検討
6月11日(金)	いじめ防止対策委員会⑦	・情報共有 ・支援策検討
6月24日(木)	○子どもの社会的スキル横浜プログラムによる学校生活アンケート実施	・実態把握
6月29日(火)	○Y-P 研修 支援検討会	・集約結果をもとに児童の実態に応じた支援を検討
7月5日(月)	いじめ防止対策委員会⑧	・情報共有 ・支援策検討
7月5日(月) 7月6日(火) 7月8日(木) 7月9日(金) 7月12日(月)	○個人面談	・実態把握
7月15日(木)	いじめ防止対策委員会⑨	・情報共有 ・支援策検討
7月16日(金)	いじめ防止対策委員会⑩	・情報共有 ・支援策検討
7月16日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会⑪	・情報共有 ・支援策検討
7月19日(月)	いじめ防止対策委員会⑫	・情報共有

		・支援策検討
8月30日(月)	○横浜子ども会議(中学校ブロックでの話し合い)	
9月10日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会⑬	・情報共有 ・支援策検討
10月15日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会⑭	・情報共有 ・支援策検討
10月25日(月) ~28日(木)	○いじめアンケート実施	・実態把握 ・具体的な対応策の検討 ・課題と成果の洗い出し
11月8日(月)	いじめ防止対策委員会⑮	・情報共有 ・支援策検討
11月12日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会⑯	・情報共有 ・支援策検討
11月4日(木) ~24日(水)	○アンケートについて児童一人一人に担任が聞き取り	・実態把握 ・支援策検討
12月	○いじめ解決一斉キャンペーン(人権週間) 各学年で人権教育を実施	・取組を学校だよりで 発信
12月3日(金) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月9日(木) 12月10日(金)	○個人面談	・実態把握
12月17日(金)	いじめ防止対策委員会⑰	・情報共有
12月22日(金)	いじめ防止対策委員会⑱	・情報共有 ・支援策検討
1月24日(月)~	○子どもの社会的スキル横浜プログラム(Y-P)による学校生活アンケート実施	・実態把握
2月4日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会⑲ ○いじめアンケートの結果・本校の傾向の分析・ 来年度に向けての取組検討	・情報共有 ・支援策検討
2月15日(火)	○Y-P 研修 支援検討会	・課題と成果の洗い出し ・来年度への引継準備
3月4日(金)	いじめ防止対策委員会 定例会(予定)	・情報共有 ・支援策検討

< いじめアンケート結果から >

一方的にいじめられているというよりも、被害児童が加害児童でもある場合がある。

自分が相手にしている行為がどう受け止められているかについて想像ができておらず、自分ばかり被害を受けているという認知をしている。

ぱれっとでの上級生の下級生に対する言動に傷ついている児童がいる。

言葉遣いの荒さに傷ついている児童もいる。ゲームやドッジボールなどで何気なく使っている言葉が普通の会話でも頻繁に出てくるようになっており、自分はそこまで思っていなくても、受け止める側には傷になっている

< 学校としての対応の方針 >

- 言葉遣いについては、表現力の不足を補えるように気持ちを表す言葉など語彙を豊かにする活動を取り入れていく。
- どんな言い方をしたら相手の気持ちを害さずに自分の言いたいことを伝えられるかなどの SST に取り組む。
- 異学年交流を通して、年上の人に優しくしてもらった経験をもとに、次は自分が優しくしてあげるという経験を積んでいけるようにする。
- ぱれっととの情報共有を定期的に行っていく。

4 学校評価アンケート 報告

今年度の保護者による学校評価アンケートの集計結果の分析と、それに基づく今後に向けての方策や方向性を報告いたします。

【1学年】

学習面では、入学して初めての学びが「楽しい！分かる！」ものになるよう、日常生活の場面と結びつけながら映像や実物を使って興味をもてるよう心掛けました。自分たちで撮影した写真や動画も授業に活用することで、タブレット端末に慣れることもできました。また、学習につまずいている様子が見られたときには、どこが分からないのか見取り、保護者と共にその子に合った方法を見つけながら「できた！」が経験できるようにしてきました。さらに、毎日の家庭学習にもご協力いただいたおかげで、基礎学力が定着し、学習習慣も身に付きました。

生活面では、まず教員が子どもたちのよいところを見つけ、伝えることを意識してきました。それが子どもたち同士の認め合いにもつながり、自分のよいところに気付くことができました。また、困った様子が見られたときには、子どもたちの気持ちに寄り添いながらていねいに話を聞き、どうしたらよかったか一緒に考えてきたことが安心感につながっていると考えます。

【2学年】

学習面では、具体物やタブレット端末を使ったり、自分の考えと友達のを比べたりする活動を通して、理解を深めるように努めてきました。一人ひとりにあった学習を通してスモールステップで「できる」を増やし、魅力ある学習活動で「楽しい」、発展的な問題や活動で「もっとやりたい」を増やしていけるようにしていきます。

生活面では、意図的に子どもたちの良いところを見つけて称賛し、自己肯定感を高めるように努めてきました。多くの子どもたちが楽しんで学校生活を送ることができたことに安心しました。できることが増え、進んで学習に取り組んだり、よりよい学校生活にするために係活動を工夫したりしてきました。これからも、いろいろなことに進んでチャレンジしていけるように声をかけていきます。

【3学年】

学習面では、算数科において、少人数指導体制や、教師二人による指導などを行い、個に合わせた指導ができるように心がけました。また、計算や漢字については繰り返し練習を重ねることで、基礎的な学力の定着を図りました。学習中は、従来の教科書とノートの学習に併せ、タブレット端末を活用しました。まず、主にロイロノートの利用の仕方を学びました。教師との画面共有機能を使ったり、友達の意見や考えを一覧で見て、新たな考えを取り入れたりするなど、学び合いに生かしました。

生活面では、多くの児童が楽しく前向きに生活することができました。お互いの言葉遣いに気を付けようとする場面や、明るく友達と接しようとする姿が多くみられました。これからも引き続き思いやりの気持ちを大切にしながら生活して欲しいと思います。

【4学年】

学習面では、子どもたちの思いや考えを聞き、学習意欲を高められるよう、必要感のある授業を行いました。素直な子どもの思いをなるべく取り入れ、分かる・楽しい授業を体育や理科学習など様々な教科で取り入れました。また、算数科では、教師二人体制でよりきめ細かく学習支援ができ

るよう努めました。どの教科でも、タブレット端末のロイロノートを活用し、文章を打ち込んだり、ワークシートなどの教材を見たりしました。それにより友達の考えや作品を見合うことも簡単になり、より学び合いが深まったように感じます。

生活面では、感染症予防を行いながら、安全・安心な学校生活を送れるようにしました。朝の会や帰りの会の時間を用いて、子どもたちや社会の状況に合わせて話をし、意識しなければならないこと、人としてどう生活しなければならないのか、伝えてきました。

【5学年】

学習面では、一人一人を丁寧に見取りながら、分かりやすい授業づくりをするよう心がけました。高学年になり、学習への取組に個人差が見られるようになってきていると感じます。個々の実態に応じたスモールステップの学習や、得意を伸ばせる発表場面の設定などを意識し、より充実した学習になるよう努めていきます。タブレット端末については、グラフや表を用いて国語のレポートを作成したり、撮影した動画を参考に体育のふりかえりをしたりするなど、学習を深めるために役立てています。また、教師の見守りのもと、児童間での通信なども活用して互いの考えを共有し認め合う場面にも生かしています。

生活面では、昨年度に引き続き感染症予防を行いながら、安全・安心な学校生活を送れるようにしました。委員会の活動などを通して、高学年として下の学年の手本になりたいという姿も見られています。一方で、5年生は人間関係のトラブルが起きやすい時期でもあります。教科交換等を活用して学年で見守りながら、ご家庭とも連携をとり、子どもたちが安心して生活できる学級・学年づくりに努めていきます。

【6学年】

小学校生活最後となる大切な一年を充実させられるよう、内容を工夫しながら様々な活動に取り組みました。昨年に引き続きタブレット端末を使用しての学習を充実させました。情報を得るだけでなく、スライドを作成してプレゼンテーションをする学習を多く設定しました。漢字や計算などを家庭学習で繰り返し練習できるようにしました。また、一斉学習の中でも学習のゴールを明確にし、自ら学ぶ姿勢を育めるようにしました。コロナ禍であり、様々な活動に制限がある中でも「今なにかできるのか」を子どもたちと一緒に考え、主体的に物事に取り組む意識を育みました。人間関係や学習面での不安も大きくなる時期です。直接相談できないことも出てくることかと思いますが、各ご家庭と連携しながら、子どもたちに寄り添い、支援していけるよう努めていきます。

【全校】

今年度より、アンケートの対象を保護者に加え、4年生以上の児童、職員とし、三者の回答を比較することで、さらに課題について見えやすくなるようにしました。全体的にはどの項目も肯定的な回答が多く、教育活動についてご理解をいただけていることが分かりました。その中でも、顕著な傾向が見られたものは次の通りです。

設問1「工夫した楽しい授業」については、児童の「あてはまる」という回答が職員や保護者を大きく上回る結果となりました。今後も、子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいけるように授業改善に努めます。

設問2「自分に合った学習方法」については、課題があると感じている保護者、児童が一部にいたることが分かりました。また設問15「学習に対する理解」については、三者とも肯定的ではあったものの、職員の回答に「あてはまる」が少ない傾向が見られました。スマイルルーム（取り出しの学習指導）や算数の少人数教室などで対応していますが、同じ困り感をもつ児童をグルーピングし

て指導するなど枠の増設ができるようにしていきます。

設問5「生命尊重・人権尊重」については去年度と比べ保護者の「あてはまる」という回答が増えました。今年度は、道徳科の学習や人権学習、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れている様子についても、学校だよりやホームページ等で保護者の皆様にもお伝えするようにしました。今後も学校での具体的な取り組みを積極的にお伝えできるようにしていきます。

設問3「いじめや差別への対応」設問12「教員への相談のしやすさ」については、児童の否定的な回答が職員や保護者に比べ多い結果となりました。子どもが困った時にSOSを出しやすいように児童と担任との教育相談の場を設定したり、相談カードの活用を全校に呼びかけたりしていきます。また、児童のちょっとした変化をキャッチできるように週1回設けている職員の児童情報交換の時間を充実させていきます。

設問13「進んであいさつ」については、保護者・児童と職員の認識が大きく異なっていました。このコロナ禍でのマスク着用してのあいさつは、なかなか相手に伝わりづらいことも考えられます。相手に伝わるようにするためには、会釈や笑顔などで伝える方法もあることなど、互いに心が通じ合えるあいさつについて児童自身が考え、めあてをもって取り組めるような学習を取り入れていきます。また、引き続き教師自らが率先して気持ちのよいあいさつをしていくことで、あいさつのよさが児童にも伝わるようにしていきます。

保護者による学校評価アンケート（ご質問・ご要望）に対する回答をします。

ご家庭からのご意見とご提案	学校の対応と回答
<p>感染症対策を徹底していただきありがとうございます。ただ、近隣の学校で出来ている事ができないのはちょっとかわいそうだと思ってしまいました。（スポーツテストや運動会等）大変な事だと思いますが、子ども達も沢山の事を我慢して過ごしているので、感染症の状況に応じての対応を考えていただけたら…と思います。 他</p>	<p>来年度は、本年度実施できなかった宿泊体験学習始め、音楽会、土曜参観などの行事を行う予定でおります。感染の状況を考慮しながら、実施できる方策について検討していきます。</p>
<p>低学年保護者では答え辛い、また、情報が乏しい質問もありましたので、「よくわからない」「どちらともいえない」という回答項目も追加していただければありがたいです。他</p>	<p>来年度のアンケートには「どちらともいえない」という欄を設けます。</p>
<p>まだ低学年なので、ありませんが、調理実習が今後復活するのであれば、自宅からの持ち寄りではなく、実習費を集めた上で学校でまとめて食材を購入していただきたいです。食材等の忘れ物をしたときに、罰を与えるかのように洗い物だけさせて実習に参加させないというのは、教育効果が見込めないと思います。一人一人の食材持ち寄りは衛生面でもコロナ対応の面でもやめた方がいいと思います。”</p>	<p>感染症への配慮も含め、6年生の一食分の食事など、一人一人が材料が異なる場合を除いて、調理実習の材料については、来年度からは校費で一括購入ができるようにしていきます。</p>
<p>近隣の学校だと、まちコミを使っての出欠確認など活用しているようです。今あるアプリを最大限活用できるよう努力していただけたらと思いました。とはいえ、我が子の場合は登校行き渋り時期は、朝の時点ではっきり行くとは言えない状況でしたので、なんともいえませんが、確実に休むと決まってる。体温の入力などは使えるのでは？と思いました。</p>	<p>現在はコロナ禍のため、ご連絡をいただいた際に詳細を確認する必要がある上、学校規模的にも対応は可能であるので、電話でのやりとりがありがたいです。来年度以降、感染が落ち着いた時期に一定期間まちコミでの出席確認を試してみ、メリット・デメリットを明確にし、検討していく予定です。</p>

<p>"世の中にいじめは存在します。大人の世界であるんだから否定できない。でも好き嫌いはしょうがい。いじめのつもりが犯罪になる可能性があることを知る必要がある。旭川市の女子中学生がいじめで自殺しました。あれは完全な犯罪です。殺人事件です。他のクラスメートが傍観者にならず何か手があったはず。他人事ではないことを知ってほしい。"</p>	<p>いじめの未然防止及び対策について、次年度も重点的に取り組んでまいります。</p>
<p>夏休み宿題の読書感想文を自由課題にしてほしいです。神奈川県内の近隣小学校では自由課題になっていると聞きました。憂鬱そうな子供を励ますのにも限界があり、親子ともに非常に負担です。大口台も6年生は国語授業で扱ったのでしょうか。他学年もそうしてほしいです。</p>	<p>読書感想文に限定せず、学年の発達段階に合わせた読書に関する夏休みの課題を出していきます。</p>
<p>"学校の2つの門も施錠した方が良いと思う。校内研究授業の際に、自習の学年があるようだが、担任が不在の状態で何かあった時は学校側はどのように対応するのでしょうか？研究授業の対象クラス以外は下校させるなどの対応を望みます。</p>	<p>現在、予算申請が受理されましたので、パレット側の門にも電子錠が設置できることになりました。</p>
<p>授業参観の午前中実施を従来通りの5限目実施に戻すよう再検討いただきたい。午前だと仕事等で参加出来る人数は減ると思いますが、学校での様子を知る機会が限りなく少なくなり不安である。もともと人数が少ない学校なので、学年ごとで日にちや時間をずらせば感染症対策も可能だと思う。</p>	<p>懇談会と同時開催の時は、5時間目に設定します。また、来年度は、たくさんの方に参観していただけるように土曜参観を行う予定です。</p>
<p>"体温表の配布が遅い。配布物や伝達事項は、もっとマチコミを活用してほしい。</p>	<p>体温表は、現在のもとの来月のものが混同しないように月末の2日前に配布することにしていきます。児童が配布物をきちんと家庭に届ける力を育てることも教育的なねらいのうちの1つと考えています。ご家庭の協力もあり、現在の提出物の回収率はとてもよい状態です。重要な提出物（面談等）などの場合は、マチコミで配布したことをお知らせする等していきます。</p>
<p>担任によって休み時間のiPadの使用範囲に違いがあるため、不公平感がでないような管理をした方が良いと思う。制限をかけられると約束を破ってしまう子もいるため、納得できるような説明は丁寧にした方が良い。"</p>	<p>感染症対策で休み時間の外遊びも隔日になっており、便宜的にiPadの使用を許可している状態です。使用できるアプリについては、学年で共通したものに限定し、使用時は担任の許可を得て使うルールを徹底します。</p>
<p>"コロナ禍で授業参観や懇談会、行事が縮小されている中で、学校での様子が本当に分かりにくくなった。たしかに手紙は配布されているが、写真はモノクロだし文章だけでは不十分。</p>	<p>お便りで伝えきれず申し訳ありません。学校ホームページに日々の学校の様子をアップしておりますので、そちらもぜひご覧ください。</p>
<p>ICTと言うならば、生徒だけではなく保護者とのコミュニケーションツールとして、非対面であっても効果的に学校の様子を伝えたり、コミュニケーションをとったりと、もう少し工夫があっても良かったのではないかと思います。他</p>	<p>改善の視点をいただき、ありがとうございます。他校の情報を参考に、本校でどのような工夫ができるか検討していきます。</p>

*裏面に市教育委員会に提出する「学校評価報告書」（全市共通様式）を掲載します。

事前に「小中一貫ブロック」での相互評価、「学校づくり懇話会」による関係者評価、を行い、確認を得ています。

*学校評価結果につきましては、学校ホームページにも掲載します。貴重なご意見をありがとうございました。

5 教育活動の具体的な取組 ○日々の活動の様子 ～学校ホームページから～

校内作品展、開催中



12月10日まで、体育館にて校内作品展が開催されています。それに先立ち、3日に体育館からの生中継での作品展のオープニングがありました。代表の児童が自分たちの学年の見所やがんばった点を自信をもって紹介していました。今年度は、松見保育園、盲特別支援学校の作品、ばれっとからの作品を展示したり、高学年は図工だけでなく、家庭科の作品も展示したりしています。面談にいらした際にお子さんの作品はもちろんのこと、他の学年の作品もぜひご覧ください。

[校内作品展見どころ](#)

5年 作品展の感想をふれあい郵便でおくる



5年生が校内作品展の観賞を行っていました。自分の作品、友だちの作品、ペア学年の作品、あとはやはり6年生の作品が気になるようですね。教室に戻ってきてから、「ふれあい郵便」でお便りを書いていました。ふれあい郵便は校内にポストが置いてあって、入れておく郵便番号代わりの学級番号をもとに配達してくれるお手紙です。コロナ禍でもできる人とのふれあいを続けていきます。

校内書初め大会 毛筆3～6年



5年生が書いた「平和の国」が職員室前の廊下に掲示されていました。体育館にて4年生が書初めを行い、職員室前に選ばれてきて、「明るい心」が次々に貼られていきます。



12日には3年生が「生きる力」6年生が「将来の夢」を書いていました。6年生が静かに書初めをしている姿を1年生が静かに見学に来ていました。「シー、としないといけないんだよ」と小さな声で注意されてしまいました。

道徳授業力向上推進の授業公開研究会



本校は今年度「道徳授業力向上推進校」として、道徳教育の研究を進めております。道徳の時間の授業を12月21日（金）横浜市の学校関係の皆様にご公開させていただきます。公務ご多用のこととは存じますが、ご参加いただけますようにご案内申し上げます。横浜市の全校に案内を送付しました。こちらの案内に記入し、市メールにて送付、またはFAXをお願いします。[道徳授業力向上 授業公開案内\[大口台小学校\]](#)

12月21日に道徳授業公開をしました



道徳の授業力の向上のための授業公開を行いました。全学級が授業公開し、参観された市の教職員と情報を共有、講師の望月先生に助言をいただきました。



小学校だけでなく、中学校や特別支援学校からも参観にいらしていただき、様々なご意見をいただきました。本校の道徳の授業力向上につなげていこうと思います。ありがとうございます。

校内書初め大会 硬筆1・2年



1年生は「ふじ山」、2年生は「大きなゆめ」を硬筆で書初めを行っていました。2年生は「ゆっくり、ゆっくり書くんだよ」「お手本をよく見てね」担任の先生の言葉と雅楽「春の海」の琴の音が静かに響いている中で行われていました。

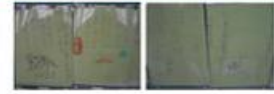
全学年の作品は1階職員室から家庭科室前の廊下に展示しました。17日（月）から21日（金）までの校内書初め展でご覧になれますので、職員玄関よりお入りになってください。

新しい遊具が出来上がりました



新しい遊具が完成しました。銀色だった遊具も赤・黄・青の三色に塗られました。寒い中ですが、元気に遊んでいます。危険がないようにすべての学年が一度遊具で遊んでから、全面解除します。

地域の人への年賀状



来年の干支は寅です。4年生が地域の方に年賀状を書いていました。いつもは見守られている子どもたちが、地域のお年寄りを見守る双方向の見守り活動になっているのがうれしいですね。地域の方が喜んでくれることを願って、失礼がないように言葉を選んで、絵を考えて、ていねいに下書きをしてから2枚のはがきに年賀状を書いていました。校内での交流のふれあい郵便とともに、地域へのふれあい郵便です。

人権週間「誰もが過ごしやすい社会をつくらう」



人権週間に毎年、大口台小学校では盲特別支援学校の副校長先生に来ていただいています。今年は伊藤副校長先生が、ドラマのことを交えてわかりやすく説明していただきました。盲特別支援学校の生徒は全盲よりも弱視にあたる人の方が多いそうです。目が見えにくいということにも人によって違い、ドラマの役の子の見え方を参考に教えていただきました。また今年設置された、大口駅のホームドアを例に挙げ、バリアフリーの社会はみんなが暮らしやすくなる社会であることを話していただきました。ホームドアによって目が見えにくい人たちだけでなく、車いすの人もベビーカーの人も便利になるのです。最後に生徒がつくったポスターを紹介してくださいました。駅やまちだけでなく、大口台小学校にも掲示したいと思います。

6年生の卒業を大切にしたい人から



6年生の卒業が近くなってきた、ということで卒対委員とPTAの本部役員の方々が6年生にサプライズをしてくださしました。午前中にこっそりと準備をして、6年生を呼んで、多目的室にカラフルな風船がいっぱいの中、6年生が自分たちの夢を発表したり、先生たちの子どもの頃の話の話を聞いたりしていました。6年生の卒業を大切に思っている人がたくさんいることが伝わってきました。ありがとうございます。

1年生生活「もうすぐ2年生」



保育園の園児から質問が届きました。
「きゅうしょくでにがてなものだったら」
「がっこうにおくれそうなきときはどうするの」
「ランドセルのなかにはなにがあるの」 などなど
質問の答えをクラスみんなで考えました。答えを考えましたが文字で伝えることができないので、動画を見せてあげるようです。劇で様子を伝えたり、説明をしたりと引き継いでいます。入学してくる1年生に向けてのプレゼントです。かわいらしかった1年生が「もうすぐ2年生」になるのですね。

5・6年 LINEネット講座



「子どもに人気な辛い料理といえば何？」という問題から始まったネット講座。辛い料理と言ったらカレー、麻婆豆腐、タンメン、キムチ、と子どもたちが身近に食べている料理が何かによって変わります。同じ言葉や絵からでも受ける印象は人によって違う。便利なツールだと感じているものにも落とし穴があります。だからこそコミュニケーションの取り方を学習していかなければなりません。ネット上のやり取りは相手の表情や雰囲気は伝わらないため、大人よりも子どもは非常にトラブルが起きやすいです。「通信教育のメディアツール」を編集

5年理科「もののとけ方」



「ものが水に溶けるのには限りがあるのだろうか」5年生が理科の実験を行っていました。50mlの水に食塩を入れて混ぜて、入れて混ぜて、何杯溶けるか調べていました。食塩とミョウバンを溶かしていましたが、「より溶かすにはどうしたらよいか」考えて、次の実験を考えていました。次は「水の量」「水の温度」を変えて実験に取り組むことになりました。さて溶ける量がどのように変化するのでしょうか。理科支援員さんにお手伝いいただき実験の準備をしています。

3年「生田緑地遠足」



「楽しみなことは何ですか」「プラネタリウム」「昔の家をみる」「グループで遊ぶ」3年生の遠足ははじめて楽しみで仕方ないという様子でスタートしました。バスの中で実行委員が考えたクイズを楽しんでいるとあっという間に川崎にある古民家園に到着しました。この古民家園は大口の地域に住んでいた方が設立に大きなかわりを持ち、尽力されたということが昨年の遠足のあとに地域の方からお聞きすることができました。例形山の展望台に登った後に、プラネタリウムで太陽と月の動きや星の学習をしました。お昼を食べた後は、民家園に入りました。「線香のにおいがする。近くにお寺があるのかな」と子どもたちが感じたように、火を焚いているのにおいがたちこめていました。すると古民家の中で囲炉裏で火を焚いているところがありました。古民家だけではなく、実際に使っている様子を見ると子どもたちの関心も一気に高まります。周りがあるのが燃えた後に出る灰であることを様子を見せてもらいながら説明してもらいました。最後まで楽しむことができた遠足でした。

6年「こころの劇場」を観劇しました



18日に横浜市の中での6年生の中でも毎年抽選で選ばれた学校が観劇している「こころの劇場」が今年度はオンラインで開催されました。劇団四季による劇「はじまりの樹」という話です。

教室の換気はじゅうぶんですか



換気扇や教室のドアや窓を開けて、換気が必要となっています。常時、学校としては換気扇や窓を開けての換気を行っていますが、特に休み時間と給食の時間の換気を大切にしています。保健委員会がCO2濃度測定器を使って、各教室の換気の状態を調べています。自分たちの教室が思っていたよりも数値が高かったことに驚き、換気を各学級でより行えるよう取り組みを考えているようです。大口台小学校は高台にあるため風が吹き抜けやすく、換気にはとても適していますが、寒い時期にはどうしても扉を閉めてしまいがちです。自分たちで必要性に気付いて行えるのはとてもよいですね。

換気するとバイキンマンが消えるよ



2階の教室にアンパンマンとバイキンマンが登場しました。5・6年生の保健委員会の手作りです。窓をあけて換気をする、アンパンマンの窓がバイキンマンを見えなくするようになっていきます。朝会で検温による健康観察とともに手洗いと換気の大切さがありました。換気は休み時間の換気だけでなく、常に行うことができるよう子どもたちが工夫して考えたものです。

ロウバイの香りがしています



朝会で校長先生のお話にあったロウバイは空門から正門につながる通路に植えられています。ちょうど開花を迎え、いい香りがたちこめています。校庭の主な植物には看板が付けられています。多くのものは60周年の時に付けられたようでもともと分かりやすくありがたいです。しかし5年がたち、その看板が何個か職員室に届けられてきました。シラカシやクスノキ、ヤマモモなどはわかって取り付けたのですが、残念ながらサザンカとタブノキがわからなくて困っています。どなたかご存じの方がいましたら、職員室に知らせてください。

1・2年算数「図に表して考えよう」



1年生と2年生の算数の様子です。1年生が足し算や引き算を学習し、文章の問題に取り組んでいます。文章から式を立てるのに、それぞれの数が何を表しているのかわかりにくい時があります。それを○を並べた図に書いて記入すると式を立てるときの手助けになります。2年生では図が抽象的になってきます。1本の長いテープのような形を自分で切り、赤と青で塗ります。それぞれが何を表しているかを書き込みます。やっていることは似ていても、具体から抽象なものになっていき、思考力がようになってきます。

4年「昔の大口台小は？」先輩に聞こう



大口台小学校の歴史を調べている4年生が先輩に来てもらって、昔の学校のことを聞いていました。「校庭にはどんな遊具があったのですか」「今よりもたくさんありました。私が好きだったのは回転式の雲梯のようなやつです。」「どんなクラブがあったのですか。」「今のようなクラブはなかったの、中学校になってからバスケットボール部にはいりました。」「4年生が次から次へと質問をしていました。意欲的な4年生の姿が見られ、地域の方も喜んでいました。

4年総合「自分たちの学校を調べてみよう」



先輩に昔の学校の様子を聞いたり、学校にある資料を読んだりして、大口台小学校について調べる学習を4年生が進めていました。20年前のアルバムを見て、「今と同じ」「なんか違う」と楽しそうに見ていました。わかったことをタブレットを使ってみんなでスライドを作り、全校に発表しました。大口台小ができたころの給食の様子、30周年や40周年に行われたタイムカプセルなどのイベント、校歌を作ってくれた高木東六さんの紹介などをしました。

3年社会「洗濯板と井戸水」



3年生が社会で昔の道具の学習をしています。洗濯板と井戸を使った洗濯を体験しました。洗濯機がある今では考えられないような大変な作業です。子どもたちは非常に楽しそうに取り組んでいましたが、寒い中で水を使っての作業でその大変さと昔の人の知恵を感じていました。地域での活動でありがたい体験をさせていただいています。

5年外国語「Who is your hero?」



英語の学習の中で、自分があこがれている人を紹介していました。仲良しの親戚な友達、自分の好きなユーチューバー、世界で活躍しているスポーツ選手などを自分の言葉で楽しそうに発表していました。身近な家族に英語を話せる人がいるということも、子どもたちのあこがれの対照になっていました。

「My hero is my grandmother. She can speak English!」

6年卒業遠足



6年生は1日元気で過ごしたようです。14時30分ごろ八景島を出発したという連絡がありました。最後の校外学習、15時15分に無事に到着しました。

事業報告書

1 事業名称	令和4年度 地域学校協働活動事業【継続実施型】			
2 団体名	大口台小学校支援地域協議会			
3 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊として児童とコミュニケーションをはかりながら、登校の安全を見てくれている。身の安全とともに、心のサポートにもなっている。 ・ボランティアによる授業のサポートが多く、特に低学年の学習支援に役立っている。 ・運動会のボランティアによる支援により、職員とPTAの負担の軽減が見られた。 			
実施必須	分野	主な活動内容	実施日数 (平日)	実施日数 (土日祝日、長期休暇)
	関係者が広く参加する研修会、交流会又は活動報告会 ① 学習活動支援 授業・学校行事等の補助 学習支援（ドリル学習、自習、宿題） その他（読み聞かせ、給食支援、キャリア体験等） ② 学びによるまちづくり（地域ブランド製品作り、地域観光振興、防災マップ作成等） ③ 地域課題解決型学習（防災教室、地域課題を学ぶ子ども会議等） ④ 地域人材育成（地域住民から学んだり、調べたことを発表する学習活動等） ⑤ 郷土学習（地域産業・商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習等） ⑥ 部活動指導 ⑦ 学校周辺環境整備（図書の整理、登下校の見守り、ICTを使用した学習等） ⑧ その他（具体的に）	○ 協議会の設置と年5回程度の開催 ○ 遠足・運動会の支援 ○ 授業(国語・算数)のサポート 【場所】 【実施形式】 【内容】 ○ 3年生と地域企業等と連携した学習活動 ○ 3年生の社会で昔の道具体験の支援 ○ 4年生による学校の歴史調べの手伝い	6	1
4 事業内容	各校の実情に応じて実施したもの			
5 人数	学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）	計	5	人
	(上記内訳) 教員OB 1人・PTA役員関係者 2人・ボランティア活動経験者			人・その他 2人
6 添付資料	ボランティア登録人数	計	20	人
				ボランティア年間延べ活動人数 計 1300 人

精 算 報 告 書

横浜市契約事務受任者

〒 2 2 1 - 0 0 0 3

横浜市 横浜市 神奈川区大口仲町 4 6 0

所在地

(横浜市立 大口台小学校 学校内) 学校内)

団体名 大口台小学校支援地域協議会

代表者 山本 和義



概算払金受領年月日	予算額	決算額	戻入額
令和 年 月 日	130,000	130,000	

項 目	予算額	決算額	積算内訳
報 償 費	10,000		
コーディネーターへの謝礼・謝金			
ポランテイアへの謝礼・謝金		26,000	藤の剪定謝礼
その他謝礼・謝金			
報償費合計 (a)	10,000	26,000	
旅費・交通費	26,000	50,000	授業補助ホラナイ (1000×28回) 授業補助ホラナイ (1000×22回)
消耗品費	8,000	42,640	1350 (ポケットリーフ) 4650 (PPフラットファイル) 5230 (ホラナイ用Tシャツ代) 31410 (紙・コピー印刷代)
印刷製本費	5,000		
通信運搬費	23,000	10,920	8400 (ホラナイ行事業内・礼状) 2520 (学校運営協議会案内)
会議費			
借料及び損料			
雑役務費		440	振込手数料
事務費計 (b)	62,000	104,000	
利息 (c)			
合計(a)+(b)-(c)	72,000	130,000	

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①問題を自立的、協働的に解決する学習方法の工夫。②友達の考え方や意見を取り入れるトレーニング③学習のトレーニングの積み重ねを行い、基礎学力の向上を図る。新しい知識や学力をつけるための土台づくりを行う。	①小グループでの伝え合いやペア学習を行うことで、自分の言葉で考えを説明したり、お互いの考えの良さを認め合ったりすることができた。②YPを年間を通して取り入れた。③何度も既習内容のプリントやテストで習熟を図った。	B
豊かな心	①道徳の授業公開を全校級で行う。②わくわくライ活動では、ペア学年による活動を取り入れ、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。③地域や商店街、官特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができていることをしていこうとする心を育てる。	①全校級行うことができた。②各学年における役割が明確になり、児童同士のコミュニケーションが活発になった。③様々な学習で地域との関わりがあり、「大口のまちに生きる子」としての自覚やまちなに対する愛着が育成されている。	A
健やかな体	①体力テストをもとに週1回体力向上の時間を運営し、体力向上や運動を習慣づける。② 体育協会と連携し、月1回リズムダンストレーニングを行う。③ R-PDCAサイクルに基く課題と成果をもとに、児童、教職員、家庭、地域、学校三師が一体で学校保健委員会を運営する。	①縄跳びを休み時間にもやる子どもの姿が見られるなど、運動の習慣のきっかけとすることができた。②体育の時間(リズムダンス)トレーニングを位置付けて、集中して取り組むことができた。③課題意識をもって学校保健委員会の取組をすることができた。	A
児童指導	①Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。②携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。	①Y-Pアセスメントを用いて、児童の実態や課題を把握し、改善に向けて実践ができた。道徳の時間の設定が難しかった。②高学年を対象に関係機関と連携して出前授業を行った。	B
特別支援教育	①特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し職員会議で教職員の共通理解を図る。②適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。③校内研修で教職員の特別支援教育への理解を深める。④学習に遅れがある児童に対し、特別支援学級によるきめ細やかな指導を行う。	①職員の共通理解を図ることができた。②通級指導教室のセンター機能を活用したり、東部療育センターと連携してコンサルテーションを行って適切な支援を行うことができた。③校内研修で理解を深めることができた。④特別支援教室の担当と担任が連絡を取り合っており、きめ細やかな指導を行うことができた。	A
自分づくり教育	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会や年間を通じた異学年交流を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。②学年に応じた地域の方々や企業と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。	1年: 幼保交流会、2年: 地域の防災倉庫見学、3年: お店体験や地域の方と昔体験、4年: 官特別支援学校との交流、5年: トヨタ原体験・幼保交流、6年: 協進印刷 など、地域や企業と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。	A
地域連携・学校運営協議会	①学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へつなげる。②各地域の代表者の方々や学校運営協議会の意義と役割について共有し、2020年度協議会設置に向けた準備を行う。	①学校・地域コーディネーターと連携し、円滑な行事の運営や地域の材をいかした豊かな教育活動につなげることができた。②地域の代表者の方々や相談し、学校運営協議会や地域支援本部の設立に向けて、人材や会則など具体的な内容を準備することができた。	A
いじめへの対応	①児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実にする。②いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。③人権の立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。	①家庭と学校が連携して、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。②教職員自ら進んで挨拶をしたり、気持ちのよい言葉遣いに努め、環境の向上を心がけた。③トラブルが起きた時には似たような状況のSSTを取り上げ、ロールプレイは特に効果的だった。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年以下の教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。②学校運営協議会を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。③グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	①メンターチームで研修や2回の授業研究会を行い、経験年数が少ない教員の育成ができた。②学校全体にかかわる行事や重要な案件については学校運営協議会で時間をかけて話し合うことができた。④打ち合わせの連絡や行事のアンケート集計で電子機器の利用により効率化をはかることができた。	B
ブロック内評価後の気付き	○5校連絡協議会では、他のブロックで学区でもある港北小と官特別支援学校とも懇親を深めることができた。 ○地区懇談会では、通学路の現状や改善点を話し合い、地域でできることについて考えることができた。また、地域の特性を生かして豊かな教育活動を深めることができた。 ○夏のブロック研修で行ったSDGsについて理解を深めることができた。 ○小小連携をする場が少なく、小学校同士の情報共有が課題である。		
学校関係者評価	教職員が子どものことを真剣に考えている姿勢が感じられる。家庭訪問は家庭の様子を知るうえで有効なので、地域訪問に加え、担任と保護者の面談が必要な場合は設定できるようにしてほしい。地域と連携した協力体制が構築されていて素晴らしい。来年度よりスタートする学校地域協働本部を活用し、現存の活動以外についてもさらに検討してほしい。新学習指導要領の完全実施に向け、教師の授業力向上と高いレベルでの教師の平準化が求められる。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①問題を自分事としてとらえ、主体的に問題解決する学習方法の工夫。②友達の意見を取り入れ、自分の考えと比較しよりよい考えへと発展させられるように支援する。③計算・漢字など基礎学力の向上を図る。新しい知識や学力をつけるための土台づくりを行う。	①新指導要領の全面実施に伴い、児童の学習活動を見直し、調査・報告活動を多く取り入れた。②個人持ちのホワイトボードで意見を発信するなど、様々な考えに触れ、よりよい考えへと発展する学習を行った。③定期的なミニテストで漢字や計算の定着を図った。	B
豊かな心	①道徳の授業公開を全校級で行う。②わくわくライ活動では、ペア学年による活動を取り入れ、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。③地域や商店街、官特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができていることをしていこうとする心を育てる。	①実践できなかった。②③コロナ対策のため、交流活動は実施できなかったが、盲学校の先生の話から理解を深めたり、商店街を取材してお店のよさをポスターや発表でアピールしたりすることができた。	B
健やかな体	①体力テストをもとに週1回程度、体力向上の時間を設定し、運動を習慣づける。② 体育協会と連携し、月1回リズムダンストレーニングを行う。③ R-PDCAサイクルに基く課題と成果をもとに、児童、教職員、家庭、地域、学校三師が一体で学校保健委員会を運営する。	①授業内容や体育的行事を見直し、密を避けてできる運動を紹介し、運動習慣のきっかけとすることができた。②後期に実施できた。③「丈夫な体をつくるためにこれからはがんばること」として、課題意識をもって学校保健委員会の取組を学校全体で取り組んだ。	B
児童指導	①児童の実態に応じて、Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。②携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。	①年間を通じて児童の実態に合った指導を行った。②出前授業は設定できなかったが、各クラスで児童の実態に応じて、SNSの正しい使用の仕方や、その危険性について理解できるように指導した。また、プリントや資料の配布で家庭での意識向上を図った。	B
特別支援教育	①特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し職員会議で教職員の共通理解を図る。②適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。③校内研修で教職員の特別支援教育への理解を深める。④学習に遅れがある児童に特別支援教室によるきめ細やかな指導を行う。	①職員全体で共通理解を図ることができた②③特別支援教育校内研修会を開催し具体的な支援の方法を職員全員で理解を深めることができた。④特別支援教室を充実させることができ、きめ細やかな指導を行うことができた。	A
自分づくり教育	①「総合的な学習の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会や異学年交流を積極的に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。②学年に応じた地域の方々や企業と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。	①視聴覚機器を活用して各学年からの動画発信をしたり、ふれあい郵便などでの交流を図ったりし、他者とのかかわりを意識できた。②自分ができることを考え、職員や地域とかかわって活動できた。学年に応じて、学ぶことや働くことの意義を考える場を設定する。	B
地域連携・学校運営協議会	①学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へつなげる。②学校運営協議会による評価、アドバイスをもとに学校の現状と課題について、学校、保護者、地域が共有し、協働して教育活動を進める。	①学校・地域コーディネーターと連携し、休校期間中に情報発信の場として掲示板を利用して頂いた。②学校運営協議会が発足し、新しい生活様式における学校の在り方や行事の精選についてアドバイスを頂き、来年度に向けての方向性を話し合うことができた。	A
いじめへの対応	①児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実にする。②いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。③人権の立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。	①いじめが起こったときにいじめ防止対策委員会を設け、情報共有を行い、対策を組織として検討し、対応することができた。②朝会で全校児童に指導することができた。③人権週間の取組で、様々な立場の人の思いを知り、自分ができることを考える取組を行った。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年以下の教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。②学校運営協議会を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。③グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	①メンターチームで研修を行った。初任者が2名2年次が1名いたため、研究授業を行うことで教員の育成に繋がった。②コロナ禍の中、学校運営協議会を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。③グループウェア等を活用し、情報の共有化を図るとともに、「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	A
ブロック内評価後の気付き	○地区懇談会では、講演とグループワークを行い、子どもたちのかかわり方について、理解を深めることができた。また、3つの育てたい資質能力を具体化して授業を見合うことで、より具体的な子どもの姿で協議することができた。 ○キャリア教育の進め方については、来年度小中で議論をしていく。また、SDGsを組み込んだカリキュラム編成について研修の必要がある。		
学校関係者評価	いつもと異なる条件の下で、できる限りの教育活動に工夫して取り組んできた。新年度も子どもの育ち、学びに必要不可欠なことは残しつつ、新しいやり方などを見つけれられるように、保護者・地域との連携を強めてほしい。学校からの情報発信については、メール配信やホームページが有効に機能していた。保護者の教育参画意識を向上させるためには、アンケートの取り方や項目の見直しも必要。また本校としての学校運営協議会の役割と責任について整理・確認が求められる。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①児童が授業で得た知識を、発信・発表する活動を多くし、主体的に学習に取り組むことができるようにする。②多様性を肯定的にとらえ、様々な考えを受け入れ、発展させる意識を育む。③継続して計算・漢字の基礎学力の向上を図る。そのための自己学習の仕方を指導していく。	①授業参観や校内放送等で、学習した内容を発表する機会を設け、児童が自ら考え、まとめ、発信できる力の伸長を図った。②タブレット端末等を活用しながら、意見交流の場を設け、多様な考えを受け入れ、発展させる意識を高めた。③定期的なミニテストや自己学習で漢字や計算の定着を図った。	A
豊かな心	①道徳の取組を文書やHPでアピールし、保護者の理解を促す。②わくわくライ活動では、各学年でのめあてを明確にし、充実させていく。③地域や商店街、官特別支援学校などの交流を通して、様々な人の立場の思いに触れ、自分たちができていることをしていこうとする心を育てる。	①道徳授業力推進校となり、年間計画の見直しや、全校級の公開授業を行った。②実施せず③地域の人たちと直接交流することができなかったが、商店街のパンフレットを作ったり、盲学校での生活の様子について調べたりし、相手の立場に立って自分たちができていることを考えることができた。	A
健やかな体	①運動委員会と連携して密を避けた運動を紹介し実践すること、体力向上、運動の習慣化を図る。② 体育協会と連携し、リズムダンストレーニングを行う。③ R-PDCAサイクルに基く課題と成果をもとに、子どもにとって必要感のある取組を、特別学校保健委員会を設定し運営する。	①昨年度に引き続き、体育的行事を見直し、授業内容を工夫して行ったり密を避けてできる運動も紹介して行ったりするなど、運動習慣のきっかけとすることができた。②今年度は実施できなかったため、来年度は計画的に取り組んでいけたらと思う。③課題意識をもって学校保健委員会の取組をすることができた。	B
児童指導	①児童の実態に応じて、Y-P(子どもの社会的スキル横浜プログラム)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)を道徳や各教科の授業で行い、年間を通じて継続した実践をする。②携帯電話やスマホの利用、犯罪や問題行動について、学校、関係機関、家庭と連携した授業を行う。	①年間を通じて、子どもたちに必要な指導を行った。来年度は、朝モジュールなどを利用し、学年で曜日を決めて、継続的にできるようにしたい。②LINE教室を高学年で実施し、とても有意義だった。4年生も開催したかった。保護者の意識を高めることも大事である。	B
特別支援教育	①特別支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し職員会議で教職員の共通理解を図る。②適切な支援・指導の必要に応じ、関係機関との連携を図る。③校内研修で教職員の特別支援教育への理解を深める。④学習に遅れがある児童に対し特別支援教室でのきめ細やかな指導を行う。	①個別の指導計画の活用に関して、年度途中に内容の見直し機会の時間の保証があるとよかった。③講師を招いた研修で困り感のある児童への理解を深め、対応の仕方や関係機関との連携の仕方などを学ぶ機会をもちたい。	A
自分づくり教育	①「総合的な学習の時間」を中心に、地域と関わりながら学ぶ機会や年間を通じた異学年交流を適切に設け、他者とのかかわりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。②学年に応じた地域の方と関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を自らの将来を想像するなど、あらゆる方向から自分づくりの機会を設定した。	①コロナ禍ではあったが動画作成をして他学年と交流したり、メッセージを送り合ったりと可能な方法を児童が考え、異学年交流を行うことができた。②JR職員の出前授業など新しい材の開発にも着手した。働くやりがいや人のために活躍する意義、自らの将来を想像するなど、あらゆる方向から自分づくりの機会を設定した。	B
地域連携・学校運営協議会	①学校・地域コーディネーターと協働し、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へつなげる。②学校運営協議会による評価、アドバイスをもとに、新しい生活様式での学校の現状と課題について、学校、保護者、地域が協働して教育活動を進める。	①学校・地域コーディネーターと連携し、体力テストの手伝いや、社会科の洗濯体験など、教育活動につなげることができた。②コロナ禍ではあったが、学校運営協議会を開催し、評価助言を頂いた。	A
いじめへの対応	①児童の情報を全職員で共有し、いじめの早期発見と早期対応・家庭や関係機関との連携を確実にする。②いじめの起きにくい風土の醸成に努め、児童と教職員が挨拶や気持ちのよい言葉遣いに取り組む。③人権の立場に常に立ち、いじめ、偏見、差別をなくすための授業を行う。	①砂時計タイムを毎週月曜日に設定し、情報を職員間で共有できた。②挨拶に対しての意識は職員と児童で開きがあった。児童会の取組など児童の主体的な活動を取り入れていきたい。③人権講話はとてもよかったので、その後の学習につなげていきたい。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年以下の教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心に年7回の活動をし、5年以下の教職員とミドルリーダーの育成を図る。②学校運営協議会を月1回開催し、学校運営を組織的に行う。③引き続きグループウェア等を活用し、情報の共有化を図る。「電子申請システム」を活用し事務の簡便化、効率化を図る。	①メンターチームで月1回の研修で、重点研究会に向けた事前検討や普段の学級で実践できることを共有を行った。②学校運営協議会を月一回行い、学校全体にかかわる行事や、高学年の宿泊体験学習について、時間をかけて話し合うことができた。③電子申請システムを用いたアンケート処理は効果的だった。	A
ブロック内評価後の気付き	d		
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り
 ペア学年の活動を取り入れたことで、自己肯定感を高め、児童同士のコミュニケーションを深めることができた。また家庭・地域・関係機関との連携を図り、地域の材をいかした豊かな教育活動を行うことができた。さらに体育の時間にリズムダンストレーニングを位置付けて、集中して取り組むことができた。週1回の体力向上の活動を日常につなげたりすることができた。対話的、主体的で深い学びが実現できる教育活動の充実については、重点研を中心に取り組んできたが課題が残る。新学習指導要領完全実施するにあたり、さらなる授業の質の向上を目指していきたい。

中期取組目標振り返り
 コロナ対応のため、想定していた教育活動ができないことが多かったが、臨機応変に対応してきた。保護者や地域の方にはご理解、ご協力をいただきながら、安全を第一に考えた取組を評価されたものだとお伝えしている。いじめや人権意識については、取組の様子を日常的に発信できるようにし、地域・家庭を巻き込んで指導していきたい。また、教育相談日を5月に設定するなど、早い時期に個別に保護者との相談ができるようにしていく。学校運営協議会の位置づけを明確化し、さらに地域・保護者との連携を図れるようにしていきたい。

中期取組目標振り返り
 (This section is empty in the provided image)